

第二番 法然寺の御詠歌 (高雲調)

松 濤 基 作曲

♩ = 88 ぐらい

mp *mf*



[詠頭] おぼーつかーなー [斉唱] たれーかー



ーーいーいーけーーんこまーつーー

f



ーとーはこまつとはくもを

mf



さーーさーーうーーるたかー



第二番 讃岐の国 法然寺

おぼつかな ^{たれ}誰か言ひけん 小松とは 雲をささふる 高松の枝
 (法然上人御作)

建永2年(1207)法然上人75歳の時、お弟子の罪の責任を負うて四国御流罪の身となり、
 九条関白兼実公くじょうかんぱくかねざねこうのお計らいで、土佐の国に配流されるところを讃岐さぬきの国に留められて、小松こまつ
 の荘しょうという地にお着きになりました。その時のお寺の名を生福寺しょうふくじと言ひ、後年移転復興さ
 れたのが今の法然寺であります。この地に約9カ月滞留され、その間、善通寺など近在のお
 寺を巡礼されるとともに、人々を教化しお念仏の教えをひろめられました。

大意 お念仏の行を小松と言って無知な人だけを導く劣った行だとそしる人もいますが、と
 んでもないことです。お念仏の行は小松どころか、雲を支えんばかりに大きく枝を張った高
 い松のように、すべての善行にもまさる最も頼りとなる尊い勝れた行なのです。

ポイント注意

- 速度遅くならないように。
- 出だしの「おぼつかな」の「お」は、詠題のソ音からソミドと「ド」音をと
 り、そこから下へドシラの「ラ」音をおさえる。またはオクターブ下の「ソ」
 をとって、「ソラ」と一音上の「ラ」をとる。
- 一拍目休止、二拍目から出るところはソフトに。